

(2) 工作物

<ねらい・目的>

緑の稜線や海への眺望等の美しい自然景観をはじめ、集落景観、農地の景観、島の玄関となる良好な景観形成を図るために、工作物の高さ・配置、形態・意匠・色彩、緑化等の基準を設けています。

① 高さ・配置

工作物の高さは13m以下とする。但し、当該工作物の機能、目的において基準を超えた高さが必要な場合は、当該工作物の設置目的等を達成するために必要な最低限度の高さとする。

地区区分

すべて

工作物の高さは地域の景観に配慮し、工作物を設置する周辺の建築物と同程度の高さに抑える。

地区区分

すべて

工作物の高さ・配置は、周辺の主要な眺望点及び拝所からの眺望を阻害しないよう配慮する。

地区区分

すべて

<解説>

ポイント①：工作物の高さは機能上、支障が出ない範囲内で低く抑えましょう。

【避けるべき例】

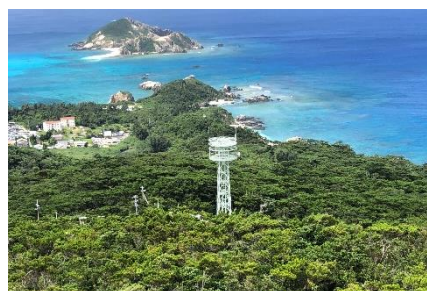
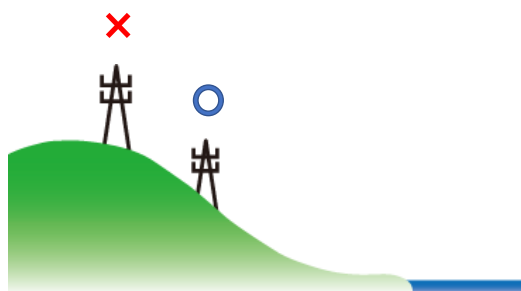


【望ましい例】



- ・周辺に建築物がほとんどないような場所では、特に構造物の存在が目立つため、高さへの配慮が重要になります。

ポイント②：工作物を配置する際には、なるべく景観に与える影響の少ない低い地形の場所等を選択するようにしましょう。



- ・機能上支障がない場合には、できるだけ景観に与える影響の少ない「低い場所」「緑の稜線・スカイライン・海岸線等にかからない場所」を選択するようにしましょう。

丘陵地エリアの周辺においては、稜線を乱さないよう、高さ・配置に配慮する。

地区区分

すべて

海岸線軸の周辺においては、美しい海岸景観を阻害しないよう、高さ・配置に配慮する。

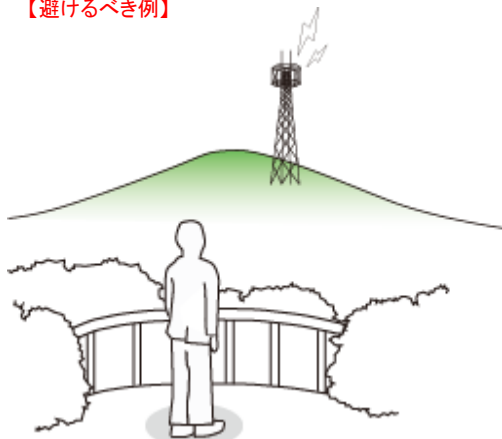
地区区分

すべて

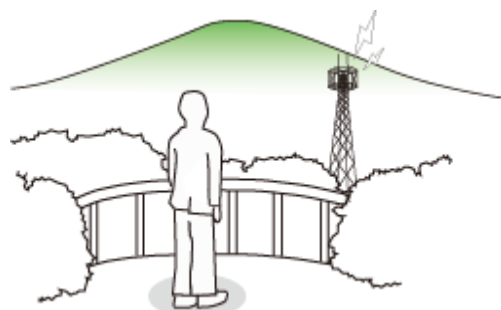
< 解説 >

ポイント①：工作物を配置する際には、なるべく景観に与える影響の少ない低い地形の場所等を選択するようにしましょう。

【避けるべき例】



【望ましい例】



・風景の主役が丘陵地や海（海岸や地平線等）といった自然物である場合には、電波塔等の工作物が緑の稜線（スカイライン）から突出しない「高さ」や「配置」にしましょう。

工作物が大規模となる場合は、周辺への圧迫感を軽減するために分節化、分散配置等の工夫を行う。

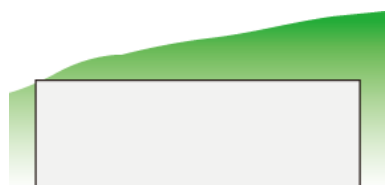
地区区分

すべて

< 解説 >

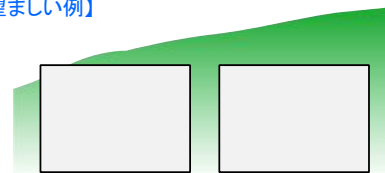
ポイント①：適度な分節・分散などにより、工作物規模の見え掛かり部分を工夫しましょう。

【避けるべき例】

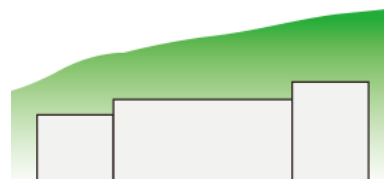


圧迫感を与える画一的な形状

【望ましい例】



分散させることで圧迫感を軽減



棟を分け、壁面を分節化させることで圧迫感を軽減

太陽光パネルを設置する場合は、周辺の風景との調和に配慮するとともに、道路や公園等の公共の場所から目立たないように配置などを工夫する。

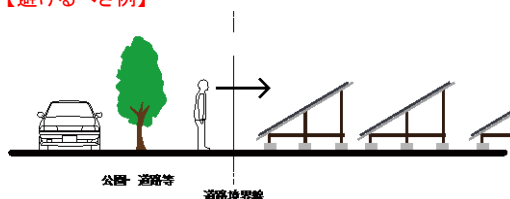
地区区分

すべて

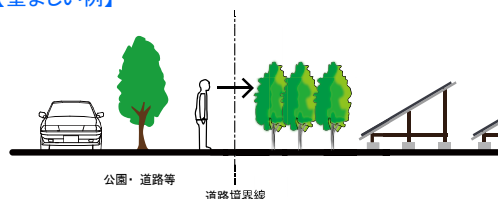
< 解説 >

ポイント①：周辺の主要な道路や公園等の公共の場所から見える場所、民家等に隣接した場所に設置する場合は、できる限り後退して配置するなどの工夫により周辺景観や民家等への圧迫感の軽減、太陽光反射の軽減などに配慮するとともに、植栽等の緩衝帯を設け直接見えないよう目隠しを行うなど、できる限り目立たなくしましょう。

【避けるべき例】

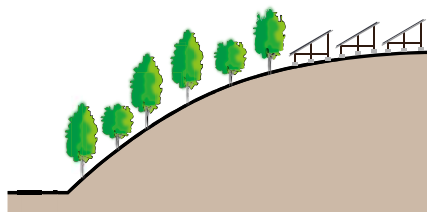


【望ましい例】



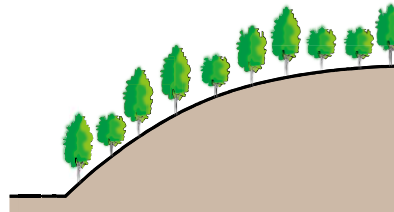
ポイント②：丘陵地、高台等での設置は避けましょう。やむを得ず設置する場合は、太陽光発電施設が突出しないよう（土地の形状違和感を与えない）にしましょう。

【避けるべき例】

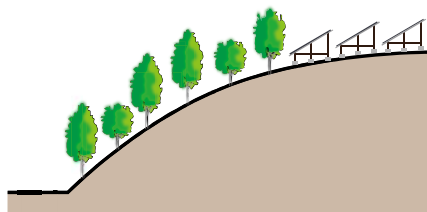


【望ましい例】

設置を避けた例

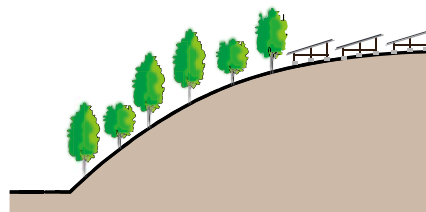


【避けるべき例】



【望ましい例】

配慮した例



② 形態・意匠・色彩

地域を代表する文化資源や、昔ながらのむら並みが残る集落、地域の重要な祭事等が行われる場所の周辺においては、歴史・文化的な雰囲気をも損ねないよう、形態・意匠・色彩に配慮する。

地区区分

すべて

< 解説 >

ポイント①：地域の重要な祭事等が行われる御嶽・拝所等の祭祀空間は、人工物の中に埋もれてしまわないよう、自然に馴染む緑化で遮へいする、祭祀空間と調和した屋根形態（勾配屋根）、作り過ぎないなど、祭祀空間にふさわしい空間づくりに配慮しましょう。



渡嘉敷神社



阿波連神社

ポイント②：御嶽・拝所、カー（共同井戸）等の景観資源との調和に配慮した木材、石材等の自然素材を活用しましょう。



復元された石積みのヒージャーは子どもたちの水遊び場ともなっている（浦添市仲間樋川）



渡嘉敷区内にあるウチマンガー

ポイント③：御嶽や拝所などの景観資源やその周辺に色彩を施す場合は、派手でけばけばしい色彩は避け、落ち着いた色彩にしましょう。



小さな丘にある渡嘉敷区内のアマンザの御嶽



緑に囲まれ奥行きがあり神秘さを感じる、赤瓦屋根で無彩色（白系）の壁色の御嶽（竹富島）

周辺の主要な眺望点及び拝所からの眺望を阻害しないよう、形態・意匠・色彩に配慮する。

地区区分

すべて

丘陵地エリアの周辺においては、稜線を乱さないよう、形態・意匠・色彩に配慮する。

地区区分

すべて

携帯電話基地局等の鉄塔類については、できる限り共同化に努めるとともに、背景になじむよう形態・意匠に配慮する。

地区区分

すべて

< 解説 >

ポイント①：鉄塔等の工作物は、構造的、機能的制約がある場合を除き、できる限りシンプルな形態・意匠としましょう。

また、節度のある風景をつくるため、鉄塔等の工作物の総量を減らし、集約を図るなど、周囲の景観を阻害しないよう配慮しましょう。

【避けるべき例】

【望ましい例】



海岸線軸の周辺においては、美しい海岸景観を阻害しないよう、形態・意匠・色彩に配慮する。

地区区分

すべて

< 解説 >

ポイント①：汀線（ていせん）の形状は、それぞれの地域固有の自然環境によって形成された地域の特別な個性・魅力です。整備にあたっては、当該海岸の自然特性を踏まえた汀線形状に配慮した形態・意匠・色彩にしましょう。また、汀線の有する特徴的な形姿がよく把握できる重要な場所（視点場）からの眺めにも留意しましょう。

【避けるべき例】

【望ましい例】



汀線の形状に沿って視線が移動するため、海岸線や岬のラインを遮らないようにしましょう
（座間味村古座間味ビーチの写真を加工（高さを抑え、勾配屋根等としたシミュレーション）した例）

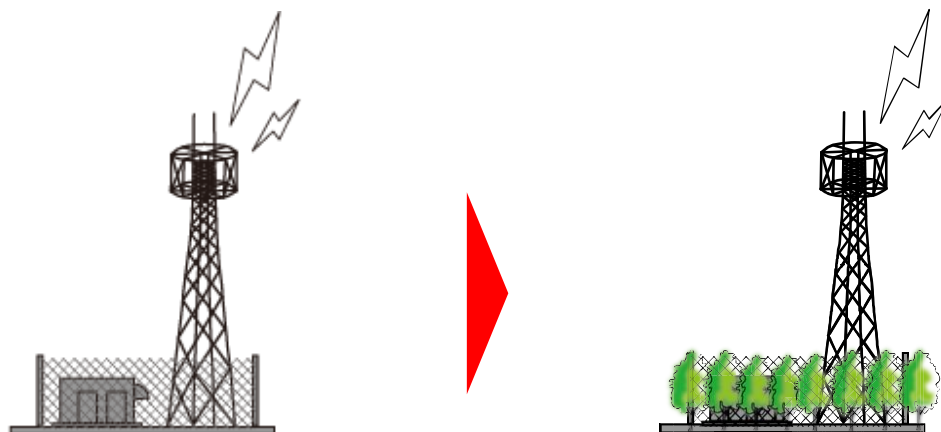
垣・柵を設ける場合は、できる限り生垣や石材等の自然素材を活用することが望ましい。また、ブロック塀等の人工物を設ける場合は緑化する等、周辺景観との調和に配慮する。

地区区分

すべて

< 解説 >

ポイント①：敷地内や垣・柵・塀の緑化などにより周辺環境になじむようにしましょう。



周辺の景観との調和に配慮し、金属類等の光沢のある素材や光を反射する素材の使用はできる限り避ける。

地区区分

すべて

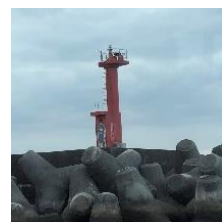
< 解説 >

ポイント①：ステンレスやガラス等の光を反射する素材を使用すると、海や丘陵緑地等の自然景観が損なわれるおそれが高くなります。そのため、金属類などの光沢のある素材、光を反射する素材の使用を避け、周辺環境に配慮し、できる限り自然素材を使用しましょう。ただし、道路標識の表示面等の法令で定めのあるもの、安全上やむを得ない場合を除きます。

ポイント②：沖縄の強い日差しを和らげるよう、花ブロックやルーバー、漆喰壁等を用いて影の部分と日のあたる部分、表面を凸凹にすることも効果的です。

航空や航路に関する色彩について

- ・高さが60m以上の鉄塔は、航空法の規定により赤白の交互塗色が定められています。（なお、航空法の改正（2000年）により、高さが60m以上でも点滅灯を設置すれば赤白の交互塗色としなくてもよいとなりました。）
- ・航路の道しるべとなる灯台は、「防波堤灯台等で左舷（塗色：白、灯色：緑）又は右舷（塗色：赤、灯色：赤）を明示する灯台以外は、原則として塗色：白、灯色：白」と航路標識法により定められ、視界が悪い場合でも認識できるように、安全を保つために目立つ色が使用されています。



工作物に用いる色彩は、高～中～低明度かつ中～低彩度とし、黒色の使用を避け、周辺の景観との調和に配慮する。

地区区分

すべて

< 解説 >

ポイント①：大きな工作物等の背景が空となる場合は、青空でなく、曇り空を背景に考えましょう。

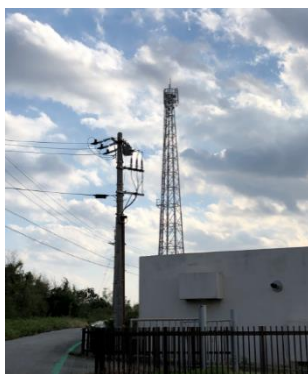
- ・沖縄のイメージとして、「青い海、青い空」ですが、沖縄で快晴の確率は意外と低く、「曇り空」が多くなっています。（海に囲まれた島嶼では、雲が発達しやすい環境のため天気が変わりやすいのです。）
- ・そのため、工作物の色彩を考える場合、背景となる空を「青空」ではなく、「曇り空」で考えることが重要です。

【避けるべき例】



緑色に塗られた鉄塔の彩度の高い色彩のため、周辺の自然（緑や空）から浮いた印象となっています。

【望ましい例】



明るめのグレーであり、目立ちにくい色彩となっています。

【避けるべき例】



彩度が高い色彩のため、構造物が目立っています。

【望ましい例】



構造物は背景の空に配慮しているため、目立たない色調となっており、丘陵地の緑が主役となっています。

ポイント②：背景が森林等の緑の場合には、なじみやすい「茶系の色」を使用しましょう。

- ・必ずしも背景の色と同一系統の色を使用すれば景観的に馴染むわけではなく、背景が樹木等の「緑」の場合には茶系（Y R系）の色が馴染みやすく、違和感の少ない自然なイメージにすることができます。

【望ましい例】



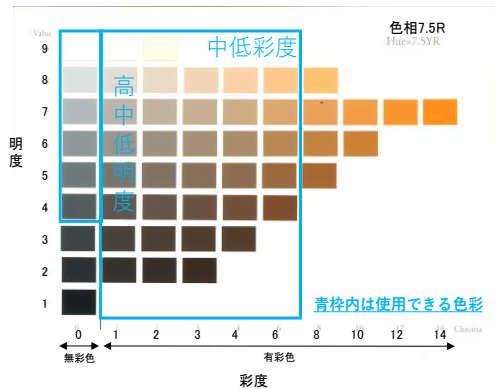
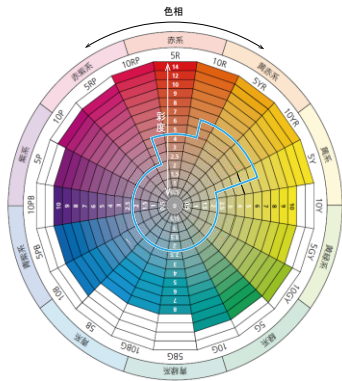
こげ茶色とグレー色の電波塔 2 基と木製の展望台（港が見える丘展望台）があります。背景が樹木等の緑色であるため、自然の中に溶け込んでいます。自然の素材や周辺と調和した色彩・形態にしましょう。

樹木等の緑色や極端な低明度（真っ黒等）は人工的な色の印象が強いため、逆に違和感が出ているようにも見える場合がありますため、立地場所ごとに検討しながら選定することが求められます。

< 解説 >

高～中～低明度かつ中～低彩度とし、黒色の使用を避ける【パターン 4】 <すべての地区>

○工作物の色彩については、落ち着きが感じられ、水や緑、農地などの存在や周辺の集落景観を妨げないよう配慮し、田畑とその背景に見える山並みをともし、開放感や明るさの演出に配慮することが大切です。

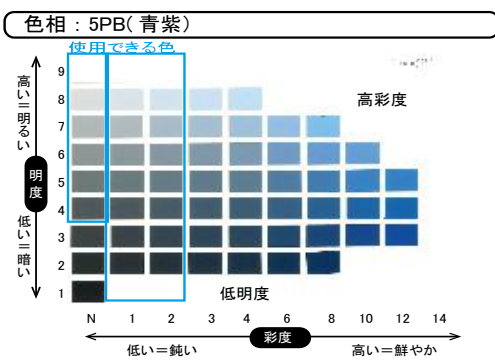
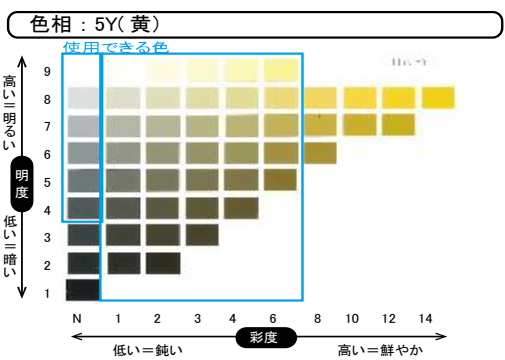
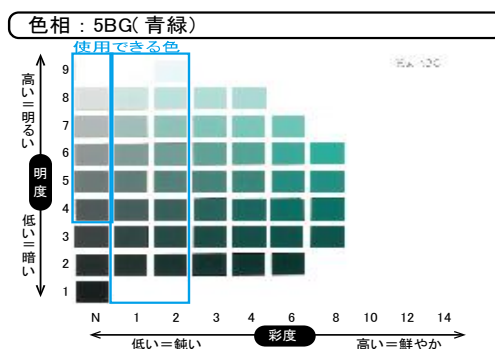
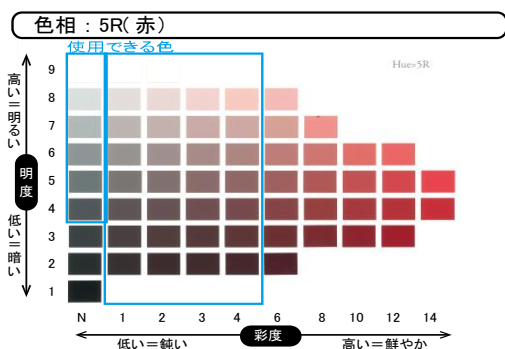


有彩色の使用できる範囲

色相	明度	彩度
0. 1R～10R (R 系)	全て	4 以下
0. 1YR～5Y (Y・YR 系)	全て	6 以下
その他 (5. 1Y・GY・G・BG・PB・RP 系)	全て	2 以下

無彩色の使用できる範囲

色相	明度
N	4 以上



※色彩基準を示したカラーチャートは各色の面積が小さいため、実際の色彩よりも地味に見える場合があります。また、実際のマンセル値と図版等の色彩が異なる場合がありますのでご注意ください。

③ 緑化等

大規模な工作物においては、敷地内緑化、壁面緑化等により圧迫感の軽減に努める。

地区区分

すべて

< 解説 >

ポイント①：工作物と塀・フェンス等が与える圧迫感を軽減させましょう。

- ・大規模な工作物は、壁面や周囲を囲う塀・フェンスが長大な面積になり、圧迫感が出やすくなるため、潤い・癒し等を与える緑化による遮へいが効果的です。



粉塵が発生しやすいコンクリート工場の敷地囲いの緑化により潤いを与えている。

ポイント②：様々な手法で機能性を保ちつつ、工夫しながら緑化を図りましょう。

- ・圧迫感を軽減させるための緑化によって機能性が損なわれないように、あらかじめ緑化できるような構造にする、計画段階から緑地帯を配置計画する等の配慮をしましょう。

敷地内に、地域にとって重要な動植物の生息環境や地域の景観を特徴づける樹木等がある場合は、それらをできる限り自然の状態で残す。

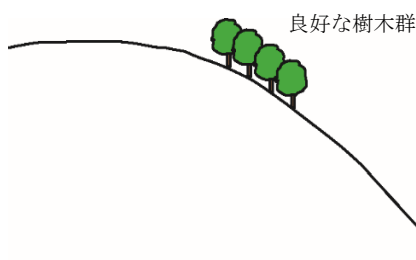
地区区分

すべて

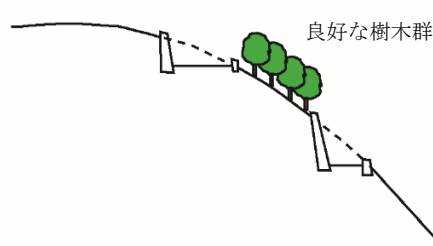
< 解説 >

ポイント①：行為地内に樹姿又は樹勢の優れた樹木がある場合は、できる限り保存または移植によって修景に活かしましょう。

【避けるべき例】

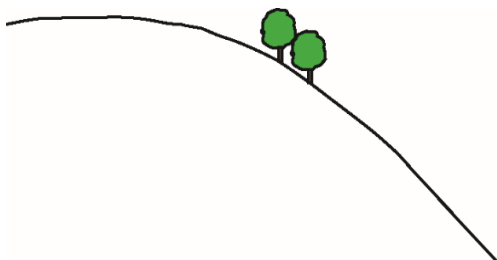


【望ましい例】

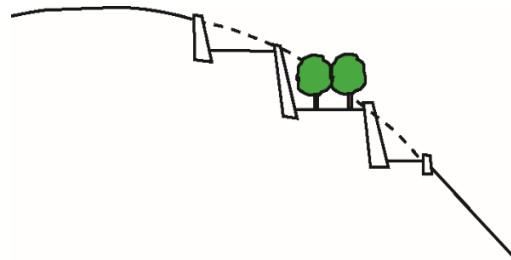


○樹姿又は樹勢の優れた樹木がある場合は、樹木を保存できるような造成計画としましょう。

【避けるべき例】



【望ましい例】



○樹木をそのまま保存できない場合は、行為地内で移植し、修景に活かしましょう。

屋外において常時設置する照明は、過剰な光が散乱しないようにし、過度の明るさや色彩のものを用いない。

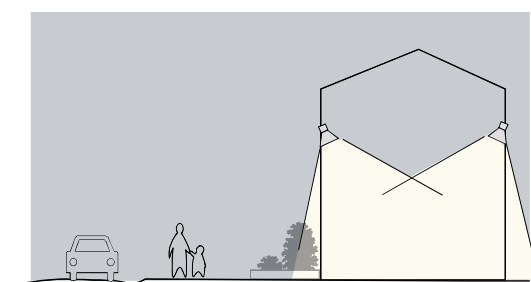
地区区分

すべて

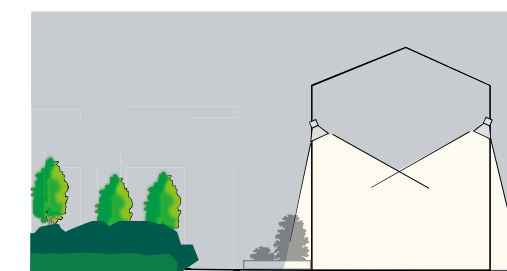
< 解説 >

ポイント①：屋外照明を設置する場合は、夜間の景観を良好なものとし、かつ、過剰な光が周囲に散乱しないよう配慮しましょう。

- ・屋外照明は、夜間の安全な通行を助ける役割や防犯機能を持ち、また特定の施設・場所やイベント時には賑わいのある夜間景観を演出します。
- ・屋外照明の光量については、安全・安心な生活を支える機能を確保しつつも、周辺の生活環境・夜間景観、生態系などへの影響に配慮したものとします。



照明の目的を確保しつつも、過度な明るさによって運転手や歩行者の目がくらむことのないよう、直接光源が見えないような照明灯の配置や形態、照度などを検討して安全性の確保に努めましょう。



敷地外に漏れる光を抑え、生活や生態系、星空観察場所への影響が軽減されるよう、光源の位置や形態を検討しましょう。